

浜厚真地区で太陽光発電を開始

三井物産プラントシステム㈱が町内に2つ目のソーラー発電所

7月7日、三井物産プラントシステム㈱(先崎尚祐代表取締役社長)が昨年9月から浜厚真地区で建設を進めていた北海道厚真ソーラー2発電所が完成し7月10日、発電所敷地内で開所式が開催され、先崎尚祐社長や工事関係者、宮坂町長、渡部町議会議長、町議会議員、地元自治会長など約50人が参列しました。

式では、先崎社長が「この発電所は、皆様の英知と技術、汗と努力の賜であり、また地の利を得て竣工に至った。プロジェクトとしては竣工はスタート地点であり、これからの運営期間がプロジェクトの本領。今後は三井物産グループの総力を挙げて、20年間、運営、運転、保守管理を責任をもって進めていきたい」とあいさつ。式典後、先崎社長や宮坂町長ら8人がテープカットを行いました。

北海道厚真ソーラー2発電所は、同社が豊沢地区で運営・管理等を行っているソーラー発電所と同様、日本太陽光発電2014合同会社が設備を所有。事業規模は、敷地面積35、512㎡に、高効率で年間を通じて多くの発電量が得られるパナソニック社製の太陽光パネル(HIT)6、240枚を設置。年間予想発電量は、約187万kWh(一般家庭約500世帯分)となっています。



テープカットを行う先崎社長、宮坂町長、渡部議長ら

胆振地方消防訓練大会で厚真消防団が初優勝！

平成27年度胆振地方消防訓練大会が7月8日、室蘭市で開催され、厚真消防団が「ポンプ車操法の部」で初優勝を飾りました。

この訓練大会は、消防団員が日々の鍛錬によって培った消防技術をタイムや正確さにより競うもの。

大会では、「ポンプ車操法の部」と「小型ポンプ操法の部」の2種目に、厚真消防団から各1隊が出場。団員らは日頃の鍛錬の成果をいかに発揮し、きびきびとした動きで大会に臨み、栄冠を勝ち取りました。



優勝した厚真消防団員の皆さん

7月のまちの話題

Town Topics

山川侑美さん・畑田真穂さん(厚南中3年)が剣詩舞コンクール全道大会で優勝！



優勝した山川さん(右)と畑田さん(左)

7月5日に札幌市で行われた『第6回日本コロムビア全国剣詩舞コンクール北海道地区決選大会』の詩舞・幼年の部で山川侑美さん(厚南中3年)が、剣舞・幼年の部で畑田真穂さん(同中3年)が優勝し、10月に札幌市で行われる全国大会への出場が決まりました。

山川さんと畑田さんは、聖月流日本吟剣詩舞道会厚真支部に所属。山川さんは「去年悔しい思いをしたので、優勝できてうれしかったです。まだまだ自分の踊りに満足していないので、たくさん練習して、全国大会では悔いのないよう踊り切りたいです」、畑田さんは「去年も全国大会に出ていて、今年も優勝したいと思って本番に臨んだので、名前が呼ばれた時はすごくうれしかったです。予選で少し悔しい思いをしたので、そこを直して、全国大会では悔いが残らないよう自分なりの踊りをしたいです」と優勝の喜びと全国大会への抱負を語っていました。



千葉シニア自然大学がGTツアーで厚真を訪問

7月5日から7日の3日間、NPO法人千葉自然学校(千葉県)の千葉シニア自然大学北海道グリーンツーリズムツアーが行われ、受講生ら約30人が、道内観光や厚真町内でのハスカップ狩り、ジャム作り、ホタル狩りなどを体験しました。ハスカップジャム作りでは、講師の指導のもと、きれいな色のジャムが完成。受講生らは出来上がったジャムを丁寧にビン詰めし、持ち帰りました。



犯罪のない幸福な社会を社会を明るくする運動

7月3日、苫小牧地区保護司会(中澤正之会長)が役場を訪れ、宮坂町長に、社会を明るくする運動総理大臣メッセージを伝達しました。

当日は、保護司会の会員らが「社会を明るくする運動」と書かれたタスキをかけて訪問。中澤会長が総理大臣のメッセージを代読し、宮坂町長へ手渡しました。



青少年の健やかな成長のために協力を

7月3日、青少年健全育成メッセージ伝達式が青少年センターで行われ、野澤政博町青少年健全育成委員会委員長が、知事メッセージと厚真町教育長メッセージを町内の全学校長へ伝達しました。

野澤委員長は「次の世代の社会の担い手である子どもたちが健やかに育つことは、私たち大人の重要な責務。青少年の健やかな成長のために、家庭・学校・地域の連携を深めながら育成活動にご協力いただきたい」とあいさつを述べました。

つきみ園児も交通安全を呼びかけ

7月13日、厚真市街地交差点でセーフティコールが行われ、町内の各団体・事業所などから約100人が参加しました。

今回は、こども園つきみのきりん組園児も参加。園児たちは沿道で旗を振りながら、道行く車に「気をつけてねー!」と交通安全を呼びかけていました。※厚真町は、7月16日に交通事故死ゼロ500日を達成しました。



町長から伝達を受ける幅田さん

幅田悦子さん(朝日)が紺綬褒章を受章

幅田悦子さん(朝日・77歳)が紺綬褒章を受章され7月10日、宮坂町長が幅田さんへ伝達を行いました。

幅田さんは、夫で前町議会議員の榮佐久さん(故人)の遺志により、厚真町の未来を担う就学前の幼児教育充実のため平成26年5月に町へ500万円を寄附。寄附金は「厚真町幅田榮佐久児童福祉基金」として活用されています。

幅田さんは「受章を受け、大変驚き、また大変ありがたいと思っています。子どもたちのために、これからも役立てていただければと思います」と述べていました。



用水路にタモ網を入れ、生きものを探す児童ら

自然を観察！田んぼの生きもの観察会

7月7日と9日の2日間、厚真町土地改良区、室蘭開発建設部、胆振総合振興局による「田んぼの生きもの観察会」が行われ、厚真中央小学校（久葉忠男校長）の4年生27人と上厚真小学校（油谷諭校長）の3年生17人が、美里地区の美里頭首工（上厚真小は上厚真地区の9区揚水機場）の見学と、共栄地区の用水路で生きもの観察会を行いました。

用水路での生きもの観察会では、児童が水田横の用水路にタモ網を入れて草や泥ごとすくい、魚や虫などを捕まえて観察。さまざまな魚や生きものが見つかり、児童たちは自然の豊かさを肌で学んでいました。

高齢者がペタンクボールで親睦交流

平成27年度厚真町高齢者レクリエーション大会（ペタンクボール）が7月17日、あつまスタードームで開催され、町内の老人クラブ会員や高齢者大学の学生など103人が参加し、ペタンクボールで心地良い汗を流しつつ交流を深めました。

ペタンクボールは、的球に自分の球を相手の球よりも近づけることを競う競技で、ボールコントロールとチームワークが求められます。コートでは、絶妙なコントロールで的球の近くに球を寄せるなどナイスショットが出るたびに、参加者から歓声があがっていました。

【順位】1位：幌内C 2位：副寿会F 3位：禄寿会A 4位：豊松会E



狙いを定め巧みなボールさばきを見せる選手

子どもの健やかな成長に必要なものは？

7月12日、医学博士で東北大学教授の川島隆太さんの講演会が総合福祉センターで開催され、約150人が参加しました。

川島教授は「生活習慣と子どもの心身の発達」と題し、睡眠と脳の関係やメディアと脳の関係、朝食と脳の発達について講演。睡眠不足が体力低下を招き、記憶を司る脳の海馬の体積が小さいまま大人になることや、テレビの見過ぎ・ゲームのし過ぎが考える脳を抑制して学んだことを消してしまうこと、バランスの悪い朝食が脳に与える影響などを事例を交えて説明。参加者は、川島教授の話に熱心に耳を傾けていました。



川島教授の講演に熱心に耳を傾ける参加者

海難事故防止に備えて合同演習

浜厚真救難所と苫小牧救難所の夏季合同演習が7月18日、鶴川漁業協同組合厚真支所（浜厚真）で行われ、両救難所の所員約30人が、AED講習や海難防止講習などの演習を行いました。

演習は、苫小牧海上保安署をはじめ、厚真町や苫小牧市の関係者らが多数見守る中で実施。所員らは、視閲を受けた後、人形を用いてAEDの使用法や心肺蘇生法について指導を受け、演習を行いました。

終了後には監督官が講評訓示を行い、所員らは、海の安全を守るため、改めて気を引き締めていました。



AED講習を行う所員ら

草花の特徴を学んで寄せ植え体験

厚真町コミュニティ運動推進協議会（山下昌秀会長）主催の「ガーデニング体験会」が7月30日、総合福祉センターで行われ、コミュニティ推進員やフラワーマスター、一般町民など23人が参加しました。

今年も、昨年に続き町内の種苗店から梅原智哉さんを講師に招き、資料をもとに実際の花苗を見ながら説明を受けました。その後、参加者は30種類以上の花苗から5本ほどを選び、寄せ植えを行いました。

参加者は、完成した寄せ植えのきれいさに顔をほころばせながら「講師の説明は大変勉強になりました」などと感想を話していました。



完成した寄せ植えと一緒に記念撮影

まちの話題 plus

厚真町とワタミ(株)が人事交流 地域おこし交流企業人委嘱状交付



小松総務課長から委嘱状を受ける小松さん（右）

7月13日、地域おこし企業人交流事業による厚真町地域おこし交流企業人委嘱状交付式が行われ、ワタミ㈱のグループ企業から派遣された小松美香さんへ、小松豊直総務課長が委嘱状を交付しました。

地域おこし企業人交流事業は、3大都市圏に勤務する大企業の社員が、そのノウハウや知見を生かし、地方自治体で地域独自の魅力や価値の向上、安心・安全につながる業務に従事することで、地方自治体と企業が協力して地方圏への人の流れを創り出していく取り組みを行う事業。

委嘱を受け、小松さんは「会社と地域がつながりを持ち、厚真町の方たちに喜んでいただけるような取り組みができればと思っています」と、抱負を述べていました。

「あつまっ子カフェ」今年も大盛況！

7月30日、ともいきの里夏祭りの会場で放課後子ども教室に参加している児童が「あつまっ子カフェ」を出店しました。昨年に続き2回目の開催となった今回は、小学3年生から6年生までの児童20人が各担当に分かれ、大きな声で呼び込みを行い、自分たちで栽培・収穫したお米で作った米粉パンやクッキー、ハスカップソーダなどを販売しました。

店長を務めた西森夢菜ちゃん（上厚真小4年）は「みんな大きな声で呼び込みができていたと思います。みんなが頑張ったおかげで商品がたくさん売れました。来年もまた参加したいです」と感想を話していました。



大きな声でお客さんに商品をPRする児童たち

賞品は厚真米！チャリティーPG大会

町社会福祉協議会（松平功会長）主催の「第14回チャリティーパークゴルフ厚真米大会」が7月9日、好天に恵まれた青空の下、町内外から107人が参加し開催されました。

参加者は、お目当ての賞品「さくら米」を横目に、上位入賞を目指して真剣なまなざしでプレー。男性の部では、2名が同スコアで1位となったためプレーオフで優勝決定戦を行い、2ホール目で決着。白熱した試合に会場は大いに盛り上がっていました。また、この大会の収益は、北海道共同募金会へ寄附されました。



優勝目指してショットを打つ参加者

突然変異？羽の一部が白いカラス

朝日地区にお住まいの楠彪さんから「家の近くに羽の一部が白いカラスがいる」と写真をご提供いただきました。

楠さんがこのカラスを見つけたのは6月下旬で、最初に発見したのは、遊びに来ていたお孫さんとのこと。楠さん宅のそばの木に親子で営巣しているようで、その後も近所の水田などでエサをとっている姿を何度か見かけているそうです。

羽など体の一部が白くなるのは遺伝子の突然変異によるもので、このようなカラスは全国各地でも時々発見されているようです。



【写真提供】
楠 彪さん（朝日）

羽の一部が白いカラス。珍しいですね！